



全国農業新聞

2018年(平成30年)

11月23日 金曜日 月4回金曜日発行

農業ベンチャーに注目

大学発農業ベンチャー

大学に潜む研究結果を掘り起こし、新たな製品や新市場を開拓する「イノベーションの担い手」として期待される、大学発ベンチャー企業。2002年に国が政策として取り組みだしたことから、現在、2千社以上が起業している。バイオテクノロジー、ヘルスケア、医療機器などの分野が最も多いが、農業分野でも大学研究を踏まえた、新たな事業を展開するベンチャー企業が現れている。



静岡大学発

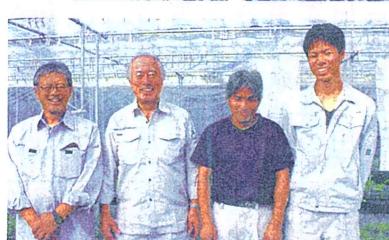
静岡アグリビジネス研究所

トレイと大学での研究データを合わせて高い作業効率を実現



トマト生産を構築。これをビジネスモデルにし、現場での栽培指導などコンサルティング業務、自社農場でのトマト生産・販売を展開している。Dトレイはオランダでイチゴ育苗用に開発された250リットル容量の連続式小ポット。

1枚のトレイにポット10個が連結し、持ち運びも容易で、極小量培地での低段密植栽培が可能。また日射量に基づいて1株当たり約30リットル、多い時で1日60回程度の培養液を自動で給液制御して、高い作業効率を実現しています。



ビジネスモデルを導入した日晴農場

トレイと大学での研究データを合わせて高い作業効率を実現

研究踏まえ新事業展開

トマトの収量4割増加 ビジネスマデルを確立

静岡大学発ベンチャー企業

業効率を実現している。

同社代表の糠谷明さん(68)

は、16年まで、同大学農学部

の教授を務め、果菜類の研究

は約4割増の25%程度の収量となる。品質に関する話題

は、16年まで、同大学農学部

の教授を務め、果菜類の研究

は、16年まで、同大学農学部

の教授を務め、果菜類の研究